

## じいちゃんとなばこ

羅臼町立知床未来中学校 三年 無藤 翠

私の祖父は、よくたばこを吸います。時々一緒に買いに行きますが、毎回、お会計は五百円を超えてしまいます。そして毎回、「昔は半分くらい安かったんだけどな」と言います。理由をきくと、「だんだん上がっていったんだよ」と、少し話が噛み合わない気がして、自分で調べてみました。すると、それは税によって値段が上がっていったということが分かりました。

「税」と聞くと、政府の財源というイメージが強く、なぜたばこが倍に値上げしたのか、疑問に思いました。もし沢山の消費税を増やしてしまったら、たばこをやめて買う人が減り税収入が少なくなってしまうのではないかと、と思いました。しかし、たばこ税の増税は、財源の確保という理由だけではなく、たばこの消費を抑制し、国民の健康を増進させるという理由もあることを知りました。

ですが、もし「増税のせいでたばこが高くて買えない」という理由でたばこの消費量が減り、たばこ税だけが財源というわけではないけれど、政府のお金が少なくなったらどうするのだろうか、と思いました。そして、消費を抑制するものがあるなら、推奨するものもあって良いのではないかと考えました。

つまり、「増税して政府のお金を無理に増やすよりも、国が推奨したい物の税を減らす」ということを政府として行うのはどうでしょうか。

例えば、具体的に言うと「一日当たりの読書時間が先進国十七カ国中十五位の日本が、国民の読書量を増やすため、本の消費税を三％に減らす」「日本の食糧自給率を増やすため、国産の食べ物に消費税を三％にする」、「政府がキャッシュレス決済を強く推奨しているため、キャッシュレス支払いの場合に限り消費税を五％にする」などです。こうして消費する機会を増やし、さらに景気も良くなって一石二鳥ではないでしょうか。

しかし、消費税を何％か減らすだけで景気が良くなるのか、と思う人もいるかと思えます。ただ「税抜では同じ千円の商品ですが、税込では本の方が百円お得になります」というような比較広告をすることによって、国が推奨する商品が買いたくなる人もいるはずだと思います。

私は、祖父のたばこが高いのは政府の税收のためなら仕方ないと今まで思っていました。

でも今回税について考えてみて、国民の健康の増進の為に抑制する増税なら、祖父には長生きしてほしいので、たばこをやめてほしいと説得してみようと思います。